



校訓：進取 敬愛 剛健

児童像 【考える子 思いやる子 たくましい子】

英田っ子

学校だより 12月号

平成30年11月30日

校長 西田 素子

先日の英田っ子フォーラムでは、多くの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。広い体育館で大勢の人の前で発表する機会を得て、一人一人が一生懸命表現している姿をご覧いただけたかと思います。学習の成果と子どもたちの成長を感じたひとときでした。また創立30周年にあたり、PTAの皆様より雲梯とベンチ、前藤井校長より卒業写真と掲示棚を寄贈していただきました。重ねて感謝申し上げます。

さて、12月は2学期のまとめの時期となります。学習面だけでなく生活面も含めて、内容と習慣が身に付いているかをふりかえり、十分でない点を改善できるように目標を立てて取り組ませたいものです。ご家庭でも話題にさせていただきたく思います。



【12月の目標】

学習：「次の時間の準備をしてから休み時間」「もう一度言えるように聴く」

→授業終了の挨拶後、すぐに次の授業準備をしてから休んだり遊んだりする習慣を定着させたいと思います。忘れ物がないように、翌日の準備ができているか、ご家庭でもお声かけください。

生活：「正しく廊下を歩こう」「正しい言葉づかいをしよう」

→廊下歩行と言葉遣いについてクラスごとに具体的な目標を決め、1週間ごとにふりかえりながら目標達成にむけて取り組んでいきます。良くなった点を放送で紹介し、広める予定です。

～ 優しい言葉と行動で 周りも自分も笑顔に ～

2018年は、世界人権宣言が国際連合で採択されてから、ちょうど70年の節目の年となります。その人権宣言が採択された12月10日「人権デー」を最終日とする12月4日から10日までの期間を、日本では「人権週間」と定め、各種マスメディアを利用した集中的な啓発運動を行っています。学校でも、本日の全校集会で、70周年目のスローガンとなっている「考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心」につながる話をしました。

11月の生活目標の取組として「ふわふわ言葉」を使うように意識させ、各学級で集めた言葉を1枚の用紙にまとめました。現在それを児童玄関に掲示し、互いに見合い広められるようにしています。そこに書かれている「すごいね」「がんばったね」「ありがとう」など、褒めてもらったり認めてもらったりする言葉は、大人にとっても嬉しいものです。「自分には良いところがある」と思える自己肯定感の高い子どもは、様々な場面で粘り強く前向きに取り組める傾向がありますので、是非ご家庭でも積極的にかけていただきたい言葉です。また、「大丈夫？」「気を付けて」「ドンマイ」「おいしい」といった心配したり励ましたりする言葉も「自分には味方になってくれる人がいる」と心強く思える素敵な言葉です。

さて、「優」という漢字は、人偏に「憂う」と書き、右側の心がふさがり首をかしげてうなだれている人に寄り添う左側の人のことを「人の気持ちが分かる優しい人」と意味する成り立ちがあるそうです。そんな「優しい人」は、同じ「優」の漢字を用いる「優れている人」でもあると集会で話しました。相手の気持ちを考え理解するには、相手が発する言葉や表情・しぐさなどから想像する「高度な見方・考え方」が必要です。自分中心の見方・考え方から視点を変え、「自分だったら」と相手の立場になって考えてみる事が大切です。互いの人権を尊重し合うことは、人とかかわる基本であり、皆が意識し実行することで、誰もが安心して気持ちよく過ごすことができる社会（学校生活）を築いていきたいものです。



「人権」とは、一人の人間としてのいのちが守られ幸せになるための権利と言ってもよいでしょう。お互いに相手の立場を考え、思いやりの気持ちを持って相手に接する心が大切です。それが人権を尊重することになります。

～法務省キッズルーム HP より引用～